

Q&A

潰瘍性大腸炎術後の上腹部痛

【問 題】

症例：60歳代，女性。

主訴：下痢，腹痛。

既往歴：潰瘍性大腸炎（以下 UC）。

生活歴：喫煙歴，飲酒歴なし。

家族歴：特記すべきことなし。

現病歴：56歳時に UC と診断された。59歳時に難治のため大腸全摘回腸嚢肛門吻合術＋回腸双孔式人工肛門造設術を施行し，翌年に人工肛門閉鎖術を行っている。その後は数回回腸嚢炎の合併はあったが，いずれもシプロフロキサシンの内服で軽快していた。69歳時の定期外来受診時に上腹部痛が持続するとの訴えがあり，精査目的で入院となった。

現症：BT 36.5℃，その他 vital sign 異常なし。嘔気はあるが嘔吐はなし。排便は1日5～8行で血便は認めていない。腹部は平坦，軟で明らかな腹膜刺激症状は認めなかったが，右上腹部を中心に軽度の圧痛を認めた。回腸嚢内の内視鏡検査では回腸嚢炎は否定的であった。

血液検査所見：WBC：6040/ μ l，RBC：413×10⁴/ μ l，Hb：12.3g/dl，Plt：29.1×10⁴/ μ l，TP：6.2g/dl，Alb：3.6g/dl，BUN：12.0mg/dl，Cr：0.66mg/dl，AST：17IU/l，ALT：11IU/l，CRP：0.32mg/dlであった。

便培養検査所見：陰性。

Figure 1 に上部内視鏡検査所見，Figure 2 にカプセル内視鏡検査所見を示す。

診断は？

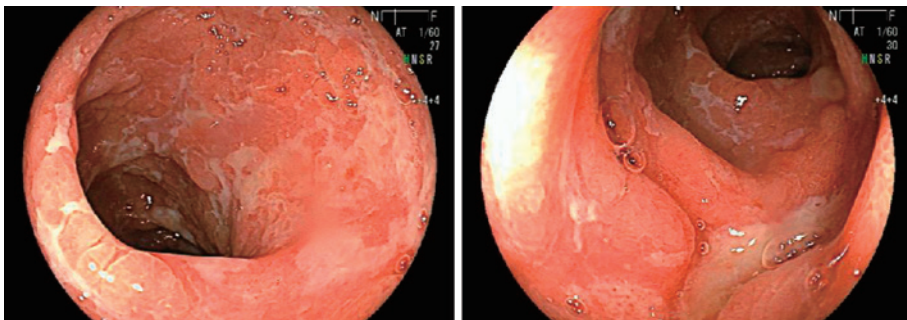


Figure 1. 上部内視鏡検査所見：粘膜は浮腫状で，白苔の付着を認める。十二指腸にびまん性の地図状潰瘍を認める。

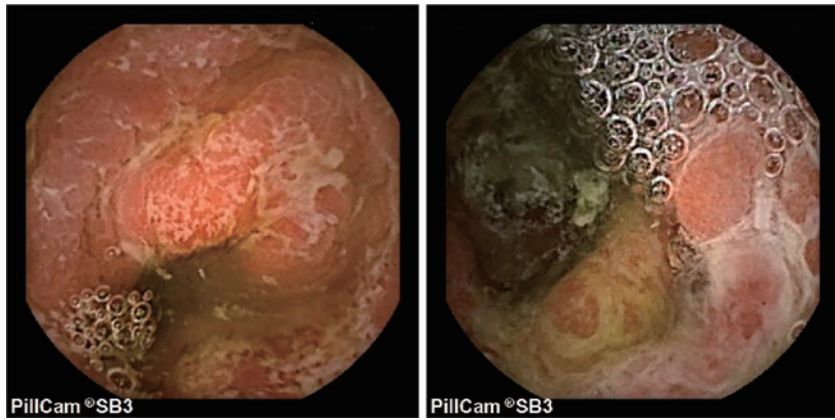


Figure 2. カプセル内視鏡検査所見：空腸に斑状発赤をともなう浮腫状粘膜を認め、潰瘍、びらんが多発している。